2026年11月10日

小林製薬株式会社 2026 年 12 月期第 3 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q:9月に公表した株式の非公開化に係る初期的な共同提案の受領に関して、現時点で開示できるアップデートはあるか。

A:初期的な共同提案を受領している旨を9月25日に適時開示しておりますが、本件に関して現時点で当社として決定した事実はなく、現時点でお伝えできることはございません。

Q:第3四半期単体の国内売上高が計画から25億円下振れした要因の詳細を教えてほしい。
また、値上げに伴う流通在庫調整の影響や、第4四半期の国内売上の見通しはどうか。

A:第3四半期単体における国内売上高の計画未達（▲25億円）の主な内訳は次の通りです。

・中東情勢の影響：▲約3億円
・風邪関連製品の低調：▲約5億円
・天候不順（冷夏による暑さ対策品の低調）：▲約2億円
・カイロの立ち上げ遅れ（暖冬）：▲約2億円
・今秋の製品値上げに伴う一時的な流通の在庫調整：▲約4億円
・通販売上の反動減：▲約1億円
・その他既存品の減少：▲約8億円

「値上げに伴う在庫調整」については、秋に実施したカイロや液体ブルーレット等の追加値上げにより一定程度発生しましたが、店頭消化は堅調なものもあり一過性のものと見ています。また、「その他既存品の減少」については、ナイシトールや芳香剤などの落ち込みが影響しています。
第4四半期については、気温や風邪の流行状況によって売上が左右されるものの、広告投資を行っている主力製品群が堅調に推移しており、これらでカバーしていく方針です。

Q:原材料価格の高騰について、来期に向けた影響の目線と一巡のタイミングをどう見ているか。また、秋以降の追加値上げの進捗および数量減の影響について教えてほしい。

A:原材料価格については原油市況の影響を大きく受けており、第3四半期よりも第4四半期の方がコスト高の影響が大きくなると見込んでおり、来期も引き続き影響を受けると想定しています。

一巡のタイミングについては、原油価格の上昇から当社の原材料コストに反映されるまで約半年のタイムラグがあるため、来年中のどこかで一巡するとは見ていますが、それが上期中になるかは現時点では不透明です。また、当社は少量多品種であり、調達する包材等も多岐にわたるため、サプライヤーからの値上げタイミングが分散していることも見通しを難しくしています。

秋に実施した追加値上げについては、主に第4四半期で約5億円の利益貢献を見込んでいます。8〜9月に発生した若干の在庫調整は一巡し、今後は効果が出てくると見ています。値上げに伴うお客様の購入数量減は想定の範囲内に収まっており、それを上回る単価アップによってカバーしていく考えです。

Q:費用抑制が進捗しているが、マーケティングコストを含め、将来の売上に悪影響が出ない範囲でのコントロールとなっているか。また、紅麹事案が一巡した後の新製品発売のペースはどうなるか。

A:費用のコントロールについては、品質向上や開発強化等に影響のない範囲で、出張旅費などの細かな経費削減や、先送り可能な人件費や研究開発費の調整等を積み上げて実施しております。したがって、将来の売上に悪影響を及ぼすものではないと判断しています。

新製品発売のペースについては、今秋は中東情勢等を踏まえて一部発売を延期したため少なくなりましたが、来春や来秋に発売時期をずらした製品があるため来年以降は増やしていく予定です。ただし、紅麹事案を受けて開発工程をより丁寧に進めているため、以前のように大幅に数が増加するわけではありません。

Q:国際事業について、中国大陸のトップライン成長（プラス16億円）の牽引役と来期の見立て、および国際事業全体の利益が大きく上振れている要因を教えてほしい。

A:中国大陸の成長の牽引役については、主力の「熱さまシート」や「アンメルツ」が、前年のハードルが低かった反動もあり大幅な伸びとなりました。また、芳香剤の配荷店舗も拡大し、売上を牽引しています。来期以降については、今期ほどの急拡大にはならないと見ていますが、引き続き増収基調は維持できると考えています。

また、国際事業全体の利益が上振れている要因については、基本路線であるトップラインの伸長により、各国の事業規模が拡大し固定費を十分に吸収できるようになったことが主な要因です。また、海外現地法人は日本からの仕入れが一定程度あることから、円安による仕入コスト低減効果も若干寄与しています。

地域別では特に中国大陸と東南アジアの影響が大きく、中国大陸は売上高の好調に加えて販促費を比較的低く抑えられたこと、さらには固定費の削減などの構造改革による効果も利益貢献につながりました。米国については、ヘルスケア製品に出荷抑制の影響があるものの、カイロが順調に推移し利益を牽引しています。

Q:米国事業における製造委託先での生産トラブルについて、委託先変更の背景と、第4四半期以降の出荷正常化の目処を教えてほしい。

A:従前の製造委託先におけるトラブル発生を受け、当初の予定通り別の製造委託先への変更を進めております。第4四半期頃から順調に生産および出荷が再開できる見込みですが、店頭需要に対して全面的な出荷が可能な状態になるには、若干の遅れが発生する可能性もあると見ています。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたものではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではございません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。